

## 第2回福井市水道事業ビジョン策定委員会の議事要旨等

### 1. 開催日時

令和元年9月27日(水)14時～

### 2. 出席者

宇治橋委員長外委員3名、塚谷局長、竹澤次長、朝倉副理事、事務局6名、  
他外関係所属長4名

### 3. 議事要旨(事務局からの説明は資料参照)

委員からの主な質問・意見	事務局からの回答
議題1 第1回委員会での主な意見及び回答について	
現状や課題を見える化したほうが良い等 (前回議事要旨参照)	委員の意見は、今回と併せて次回提示するビジョン案に盛り込んでいきたい。
議題2 目指すべき方向性と投資・財政計画について	
基本理念と理想像・水道事業を取り巻く環境の変化	
(資料P9)一人当りの使用水量の見通しについて、過去の減少傾向から見ると少し緩やかに減少しているように見えるがどういう理由からか。	10年間の傾向から、最も実績に近い算出式を採用し見通しをたてている。
(資料P13)福井市の耐震化率について、「過去に液状化が発生し、一部の管(K形管)が耐震管として計上できない」とあるが、これを含めても耐震化率は低いのか。	K形管は、地盤が良い場所では耐震適合管となる。K形管を含めた本市の耐震化率の全国平均は超えるが、過去の災害で液状化を起こしているため含めていない。
水道施設の更新需要(アセットマネジメント)・投資計画	
(資料P21)5年ごとに上昇しているジグザグの線は、投資の合理化により、更新費用は年間61億円から26億円で縮減されるが、費用が足りないため、料金見直しを5年ごとに行いたいというグラフに見える。グラフで値上げに触れているのだから、文章でも値上げについて記載した方がよい。 更新費用を26億円で縮減しても、5年後10年後には水道料金値上げが必要ということか。	投資の合理化により、26億円で更新費用を縮減しても、現在の水道料金では厳しい状況である。ただし、5年で料金を上げるという意味ではない。「水道料金算定の基準」で水道料金は3～5年を目処に料金算定となっていることから、参考イメージで作成したグラフである。 3～5年ごとに料金見直しの検討は必要と考えているが、必ず水道料金を値上げするものではない。
水需要の減少に応じたダウンサイジングとなっているか。また、このダウンサイジング以外に、更に経営の効率化は考えているのか。	施設を更新する際の規模は、当該施設が完成する時点で必要な水需要を満たす能力が必要となることを考慮する必要がある、更新時期に併せてダウンサイジングを図っていくことが最適。 また、民間委託を進めることで職員数を削減するなど経営の効率化を行っている。

委員からの主な質問・意見	事務局からの回答
施設の長寿命化はどのように行っているのか。	例えば、機器設備等については、日常点検を十分に行い、適切に修繕を行うことで全体の更新期間を延ばしている。
<b>財政計画</b>	
令和10年には資金が枯渇するので、枯渇する前に令和5年に値上げしたいと明記するべき。	
公営企業の財政シミュレーションは分かりにくい。赤字になる部分などを分かりやすくすると良い。	
<p>少子高齢化が進む中で、長期にわたって水道インフラを維持していくために、全体に負担をお願いしていくことを示していくべき。</p> <p>いつでもどこでも安全で美味しい水が飲めるというのは、当たり前の時代ではなくなってきているということを十分にPRし、値上げ反対とならないように丁寧に説明する必要がある。</p>	
蛇口を捻れば安心安全な水が出てくるという状況に慣れすぎている。水道水を作るためにはたくさんの苦勞があるということをもっと広報すべきである。	様々なイベントや出前講座、広報誌などを通じて周知していきたい

K型管：継手に抜け出し防止構造を有していない水道管